

保姆となりし最初の一週間

某 教 生

身始めて保姆となれる最初の一週間は誰れしも著るしき感慨の胸に満つるを覺ゆ可し。左に載するは女子高等師範附屬幼稚園に於ける一教生の手記なり。面白き節多ければ茲に掲ぐ

十一月四日 月曜日雨天

今日から保育實習の爲めに幼稚園教生として出席致しました。兼ねてより期待はして居るもの、高等女學校の五年を教へて居ました身には境遇の變化が餘りに多うすぎる様でたいく珍奇の感と不案の念とが常住して居る外は胸中一物もなしといふ氣持が致しました。幼児は愛らしいには違いないけれども大變弱々しく見え一寸でも觸れるとつぶれはせぬかとさえ氣遣て居ました。九時十五分までは敬遠主義を實行して幼児に接せぬ様に勉めましたが、この時會集がありましたから幼児と

共に遊戲室に集まり新教生の披露式に加はりました、幼児の中には不思議そうな顔付して見て居るものがありません、それに正面からはフレール先生のお肖像が見下して居られるので一種異様に胸騒ぎして無限の感に打たれました。○先生より御披露の御言葉がありませんと幼児は皆うれしうな顔をして下寧に禮をしましたので堪らなくなつて泣きたい様な氣が致しました。書物などで幼児の愛らしく天真爛漫な事はいやになるほど讀んで居ましたが、此時初めて其事實であることを確かに意識せられ清鮮な空氣に満身を掃はれた如き感覺を覺えました、花を愛するものは花に對して身の煩を忘ると云ふからには自分もこの無邪氣な愛す可き幼児に向つてわらゆる心配を忘る可き筈であります、今迄は保育事業を難事の中の難事なりと聞いて居りましたが或はそれ程でないかも知れぬ否一にも困難二にも困難と宛から保育全体が困難そのもの、様に考へるのは周到過ぎて却つて誤

るかも知れぬ等と考へながら無意識で室に入りま
した。

夢我夢中で實習科の方々の内遊積木を拜見致しま
したが不安の念だけはいつの間にか消え去つたと
見えて幼児をかまつたり悪戯を致しました。後で
気がついて大に後悔をして居りますがその時は全
くの無意識で云はい小供に吸引された様な次第で
御座いました、放課後〇〇先生より有りがたい御
注意を受けましたが如何にもと思はれる事ばかり
でありました、三年生の時に先生より保育の理論
をお習ひ致しましたが足はぬ自分には解らぬ所も
ありましたに一度幼児に接して見ますとそれが真
から得心が出来るのみか深く感動されました。實
習と理論とを同時に習ひ給ふ實習科の方々が今更
の様に羨ましく感じました。

所感幼稚園の空気に就いて

幼稚園の空気がからと云つて特別調にした譯にあ
らねば化学者が分拆しますと酸素も窒素も炭酸も

ある可き筈のものはあるだけあるに定つて居るに
と不思議に聞えるかも知れませまがこゝに云ふ空
氣と云ふのは左様なものをさしません。一言で云
ひ表はせば風と云ふことで御座います、私は長り
立て、書くことが出来ませぬが左の四つの特色を
持つて居はせぬかと存じます。

一、よく先生達や實習科の方々の云爲行動を拜見
して居ますと何處から吹いて来るか分りませぬが
一種温和な落ち付のある而も陽氣な風が吹いて來
て春風駘蕩裏に包んでしまふ様に感せられます。

幼児の空氣は何時春の香にくゆつてとるに足ら
ぬ雑草までか芽を伸す様に出來て居ます。

二、よほど家庭の彩色があります一見しますれば
西洋式の建物が古色を帯びていかめしく立つて
居ります所へお室の中には机も腰掛も黒板もあつ
て一寸學校の様であります。かゝる處から幼稚園
は小學校の豫習場の様に誤解されるのでせうがそ
の内容はよほど家庭に近い様で御座います、細い

處はよく分りませぬが食事をするにしても七八人の子供が保母と共に卓を圍んで濟すと云ふ風であります。これでこそ規則書にある通り幼稚園は家庭教育の欠を補ふ所であると合點が出来る譯で御座います。

三、規則書を見ますと幼稚園は幼稚の体方を保護増進し感官の練習やら觀念の收得審美心の養成やら道徳的陶冶などをするのがその目的らしく書いてあります。而してその方便として遊戯手技談話唱歌の四課目を遣らせて居りますがそれは畢竟幼稚園を強いて分拆的に脱明した結果でありまして實際の所は幼児の心身自然の活動即「遊」に應じて行くと云ふだけでその間に幼児を適所に誘導するのでありますから保育行爲は無意識的に進行する様に見えます。即幼児が面白がつて遊んで居る中にいつか自然と規則書にある目的を實現さすのであります、幼児が好奇心に誘はれ模倣の本能に導かれ觀察したり實驗したりして不知不識の間に

智識を増進する様な仕組でありますので別にやかましく豫案を立てずに鶏小屋に行けば鶏の話聞かしその世話もさせ花壇に行けば花を教へ掃除の時にても小供が望めば手傳はせるといふ風で御座います。此無意識の處が妙味のある點と思はれました。

四、差別教育を除程重んじて居ます。個人性の發揮を主眼として居ます。自分は社界的教育學を信仰して居ましたので、フレーベル先生の御説などに少々あきたらぬ節はないかと思つて居りました（ベルゲマンの教育學書にはフレーベル先生を個人的教育學）とし、あります處が近頃よく社會的教育學を讀んで見ますと（ウイルマンとベルゲマンの著書）矢張個人性の發揮を重要視して居ることがわかりました。その上に倫理哲學の方でグリーン一派の實在説を讀んで如何にしても保育行爲はフレーベル先生の御説でなくてはならぬと感じて居りますからこの個人性の發揮を重要視し

て居る處がまたなくうれしく存しました。今日の處學校は兵營主義で共同劃一を主として居ます。が幼稚園は差別主義だと申したら御座います。

以上を概括して見ますれば幼稚園の空氣は無意識周圍に依つて個人を適處に誘導し春風の性格を感化によつて作らんとして居る様に見受けられます、若しこの私の考へか間違ひなければ第一に自分の性格を改造しなくてはならぬ、秋霜のまゝでは人間の萌芽を皆枯してしまひます。それでは實に濟まぬ譯だと思ひます。

●老爺の昔物語 東京市養育院の收容者に宮本吉郎と云ふ本年七十五歳の老爺がある。彼れが自身の身上話なりと云ふを聞けば何となく處世上の一鑑戒を興へらるゝ思あり。左に之を記さん。

私は紐州和歌山の生にて十二歳の時出家致し魁善と申しし關た、師匠は日蓮宗の人で御座いました。十八歳の時に江戸へ修業にまゝこされまして本所の法恩寺と申す寺におちつきました。二

十五歳の時に一ヶ寺の住職の格ができましたが、尙も修業の爲め水戸地方へ托鉢に出かけました。所が尊王攘夷の説が盛んの幕時代で御座いましたのでですから終ひく其の渦中に捲き込まれまして還俗致し、それより壯士輩と共に關東の各地方を奔走致

しました。其の時武州の府中に暫時滞在致したとが御座いました。當時武州一圓の大親分たる一の宮萬平と呼べる博徒と賤々往來致しました。所が心易くなるに從て賭博の味を覺え終には彼の子分にならうと致しましたが、彼れの申すに賭博渡世と云ふものは外見は頗ぶる樂に見えますが中々心の中には苦しみのあるものです。腕が強ければ親分の爲に命を捨てねばならぬ場合もあるし、又は國越を致さねばならぬやうのこともあり弱ければ愈々苦しみ通して、そうして貴方の様な以前僧侶の身であつたものが國事のために還俗して、其れが又た博徒になる杯とは大なる不心得と云はねばなりませんと懇々諭されました。然かし最早心の駒が狂ひ出したの後のとですからとうとう無理やりに盃を貰ふて彼の子分となりました。當時はどうやらこうやら一人前の長脇差として廻してまいりましたが、維新と爲つてからは博徒も四方に流離しまして到底これでは口すこしが出来ませんから、愈々零落しまして或時は農家の日暮に雇はれ又或る時は土方の群に入りて辛くも其日を送りましたが、四十九歳の時始めて夢の覺めたる如く今更佛罰の恐しきを感じ、どうか眞人間と爲つて殘生を送り度いと思つたので妻にも今迄の懺悔話を致し、手を携へて身延山に參詣しこれ迄の罪過を心底よりお詫致しました。されど今更一ヶ寺を持つ譯にゆかず或る人の周旋にて日蓮宗の講中に入り一生懸命に働いて居りました然るに今より十六年前昔と造りし罪の報にて眼疾にかゝり、之れが爲め兩眼とも失明いたしました。これよりしては一層講中の厚き情に浴し讀經のお蔭にてこれまで無事に消光致しましたのです。昔を回想すれば實に恐ろしく思はれます云々。